

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2023年3月31日

事業ID: 2022007661

事業名: 山口県萩市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(1年目)

団体名: 特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク

代表者名: 代表 児玉頼幸 印

TEL: 070-7562-1187

事業完了日: 2023年3月31日

■ 契約時

事業費総額	:	9,550,000 円
自己負担額	:	350,000 円
助成金額	:	9,200,000 円

■ 箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■ 事業完了時

事業費総額	:	9,958,776 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	758,776 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	9,200,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1. 事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■ 事業内容1

(1) 助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 山口県萩市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
 (1) 期間: 2022年4月1日～2023年3月31日(週5日、11時から19時まで開所)
 (2) 場所: 山口県萩市
 (3) 対象: 家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に30名
 (4) 内容: 子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

(2) 事業完了時の事業内容(実績)

1. 山口県萩市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
 (1) 期間: 2022年4月1日～2023年3月31日(週5日、11時から19時まで開所)
 (2) 場所: 山口県萩市
 (3) 対象: 家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に20名
 (4) 内容: 子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。



(3) 成功したこととその要因

当初から地域の関係者(行政、関係機関や団体等)と連携して、計画づくりや運営に関する意見交換などを行い、開所以降も、定期的に協議会を開催して、実施状況の共有や事業に関する意見交換を行っており、様々な面で支援をいただいている。また、地元の大学からもボランティア等の確保に協力をいただき、運営の体制づくりに協力を得ている。

(4) 失敗したこととその要因

当初計画では、利用対象者30人、1日平均利用者15人の計画を立てていたが、曜日による人数のバランスがあり、少ない日は2～3人、多い日は勉強会やこども食堂の利用者は多くなっている。毎月、チラシ等による情報発信はしているものの、失敗というほどではないが、隣接する小学校や、近くの中高生の利用(シェアキャンパスなど)の利用をもっと増やしていきたいと考えている。

(5) 事業内容詳細

(1) コミュニティカフェ: 誰でも自由に利用できる場所で、日中の利用は少ないものの、放課後や土曜は子どもの利用がある(6月以降、延べ人数 子ども790人、大人635人、月平均140人ほど)、(2) シェアキャンパス: 主に学習や会議などで利用(同、子ども365人、大人93人。9月から毎週土曜午前中、勉強会(昼食付き)を開催し、毎回5～6人利用、のべ143人)。(3) こども食堂: 毎月1回開催、1回あたり60食。7月以降は持ち帰りのみ。3月末までに11回開催、570食配布。(4) ひとり親家庭向けフードパントリー: 1月から萩市内のひとり親家庭向けにフードパントリー(のべ110家庭)と相談対応を実施している。(5) その他イベント: 昨年夏休みに10回の体験イベント、萩は「萩の旬を食す会」「味噌づくり」などイベントを開催(計26回)。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2 契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- 1 地元の市や関係機関等と協議会をつくり、連携した施設運営や他地域への波及などを旨とする体制を整えるとともに、関係各所(市教委、学校、市社協・SSWなど)に事情を説明し、利用促進の協力を要請
- 2 2023年3月31日まで一日平均利用児童数を15名にする
- 3 ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- 4 子どもの「経験の不足」を解消するイベントを事業期間内に20回実施する

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	657	文字数チェック	OK	
<ol style="list-style-type: none"> 1 市や関係機関等との協議会 開設以前から、市や市教委、市社協、市内の関係団体や大学等からなる協議会(開設前は準備会)を設置して、事前説明や協力要請を行い、開設(6月)後は、ほぼ3か月おきに協議会を開催し、利用状況や体験イベントなどに関する意見交換、利用促進に向けた協議を行っている。 2 2023年3月31日まで一日平均利用児童数を15名 現在、週5日(火曜～土曜)、11時から19時まで(土曜は10時から)開館しているが、子どもの延べ利用者数(6～2月末)は1,639人、1か月20日開館として、20日×9か月=180日で割ると、1日平均10人弱となるが、実際には曜日により変動(火曜は少ない)や萩市が10月以降、小学生は17時までに帰宅するなどの約束事があり、利用しにくくなる面もあり、今後検討する。 3 ボランティア等の地域住民などと多世代交流機会の提供 勉強会や子ども食堂の際の調理ボランティア、施設運営や勉強会(学習支援)の学生ボランティアなどや、多世代の交流の機会は「ボラ活はじめの一歩(3回)」や「おとなの学習会(3回:児童福祉の施策、こども家庭庁、子どもの権利など)」といった市民向けの講座開催 4 子どもの「経験の不足」を改修するイベント20回 2022年6月プレイベント2回、7月～8月夏休み期間に各種イベント10回、駄菓子屋さん、9月以降はハロウィン、おむすびワークショップ、クリスマス飾り、大掃除、おもちこね、恵方巻をつくろう、味噌づくりなど、計26回で達成している。 				※700文字を 文字数チェッ 入力のセルが

3.事業実施によって得られた成果

萩市内には、これまで「子どもの居場所」は設置されておらず、学習支援を行う団体もなく、定期開催（例えば、毎月1回など）の子ども食堂もなかった。また、萩市の事業としても「子どもの居場所事業」はなかったが、当法人の本事業をきっかけに、萩市は2022年度、独自に「萩市子どもの居場所事業補助金」を創設することになった（継続事業）。また、当事業を実施するにあたり、事前に萩市や市教委、市社協、関係団体等に説明して協力要請を行うとともに、開所後も運営サポート協議会として、定期的に情報共有や意見交換を行うことで、主体的に関わっていただいている。さらに、近隣の小学校や中学校にも事前に説明のために訪問するとともに、定期的に訪問し、活動状況等を訪問し、連携を図ることとしている。

情報発信の面では、萩市子育て支援課を通じて、毎月「通信（ニュースレター、イベント案内）」を小中学校に配布し、イベント等は記者配布を行い、周知に協力いただいている。

地元の至誠館大学は運営のサポートや学習支援の場御ランティアとして学生に協力してもらうとともに、地域住民向けの研修会に大学の教員を派遣してもらうなど協力を得ている。

このように、地域の様々な機関との連携により、運営できており、今後、さらに内容の充実や利用促進に向けて、協力していくことで、この事業に対する地域の関心も広がり、行政への刺激にもなり、他地域への波及に向けた雰囲気づくりなどにも取り組んでいくこととしている。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策

当初から、事業の中心を「居場所づくり」と「学習支援」、「子ども食堂」としていたが、「居場所づくり」と「学習支援」は就学援助やひとり親家庭など、困難を抱えている子どもを対象とすることを想定していたが、対象を限定することで、却って、子どもたちが利用しにくくなること、困窮などにより、いじめなどが発生することが懸念されたため、特に「学習支援（昼食付き勉強会）」は中学校の校長とも相談し、「就学援助等」の条件を付けずに、誰でも利用できるとして、利用案内をすることにした。

ただ、「誰でも利用できる」ということが、子どもたちや保護者等へ（何をするとするか）わかりにくく、当初、想定していたほどの利用者になっていない状況となっている。

本事業では「食事提供」も考えており、近くの児童館とも連携し、食事が十分に取れていない子どもたちへの支援も予定しているが、あまりストレートには言いにくい面もある。

そのため、萩市内の主任児童委員等を通じて、支援が必要な家庭への周知を図るとともに、当法人が以前から萩市内で実施しているひとり親家庭への弁当配布などの利用家庭に対して情報提供し、利用に結びつけるためのフードパントリーなどを実施している（2023年1月以降）。

開設2年目となり、施設自体への認知は広がっていることから、2023年4月以降は子ども食堂や各種イベントによる利用促進や、関係機関との連携強化による要支援家庭へのアプローチを続けていくこととしている。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書（4月作成）
居場所の「通信」（毎月、近隣の3小学校、2中学校に萩市子育て家庭課を通じて配布（家庭数分：2,500枚）



(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf（なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。）

上記で登録したURLをご記載ください。